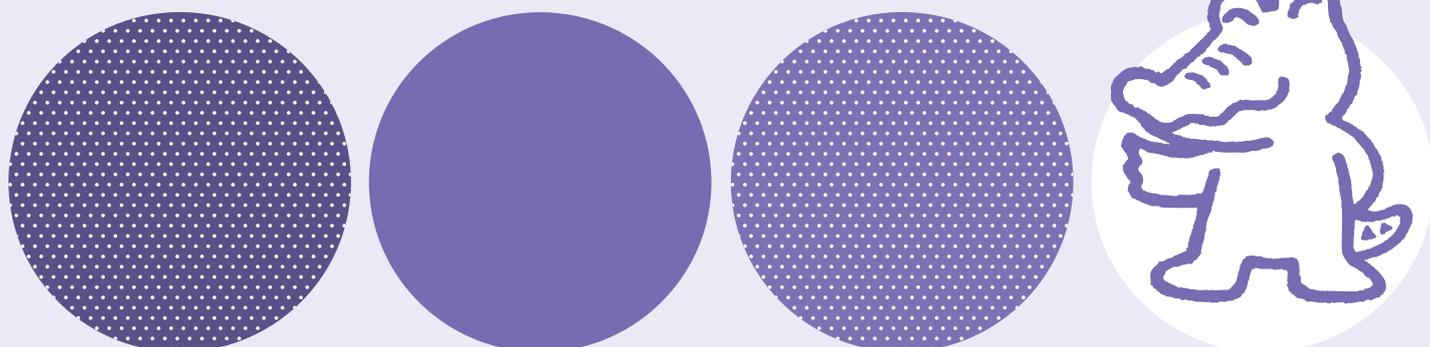
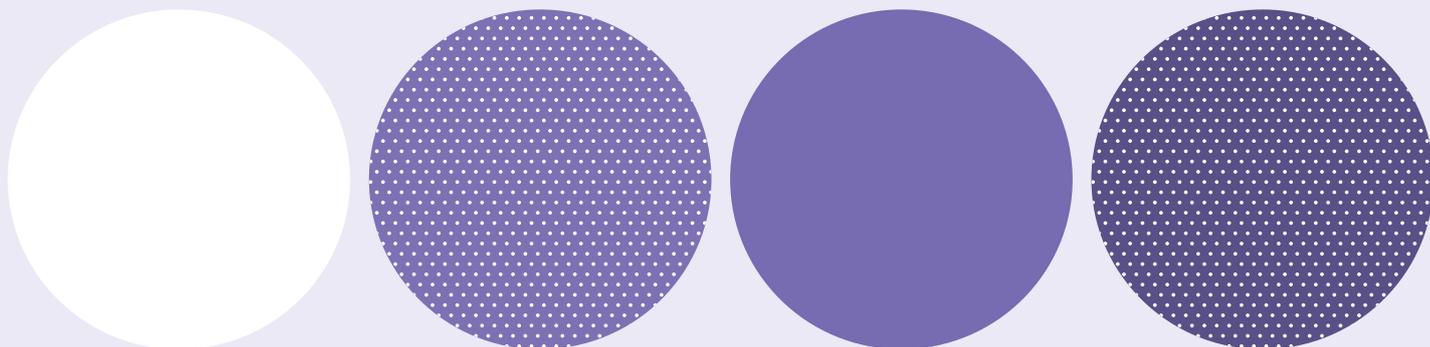


平成27年度版

発見つるみ!

～データでみる鶴見区～



はじめに

区民の皆さまには、日頃より、区政の推進に御理解、御協力をいただきましてありがとうございます。本書は、鶴見区に関する統計データを中心とした、鶴見区の特徴をまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの鶴見を考えていただく際の資料として、御活用いただければ幸いです。

さて、鶴見区は、昭和2年の誕生以来、臨海部の産業の発達とともに、住宅地と商業地が発展し、現在では、人口は約28万人(市内18区中第3位)、世帯数は約13万世帯(18区中第2位)に達し、今もなお成長し続けております。来年は、いよいよ鶴見区制90周年の年になります。今年、90周年に向けて皆さまとともに鶴見区全体を大きく盛り上げていきたいと考えています。また、鶴見区の更なる発展を目指し、「笑顔と元気の輪が広がるまち『つるみ』」を合言葉に、引き続き、「安心」、「ぬくもり」、「活力」を実感できるまちづくりを進めてまいります。

最後に、発刊にあたり、貴重な資料を御提供いただきました関係諸機関をはじめ、御協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

平成28年1月 鶴見区長 征矢 雅和

目次

1 鶴見区のプロフィール

区の歩みと現状・誕生・地勢	1
略年表	2
鶴見区的主要な指標	3

2 人口

人口の動向	4
年齢別人口の状況	5
外国人住民	7
就業状況・労働力人口	8
流出人口・流入人口・昼夜間人口	8

3 産業

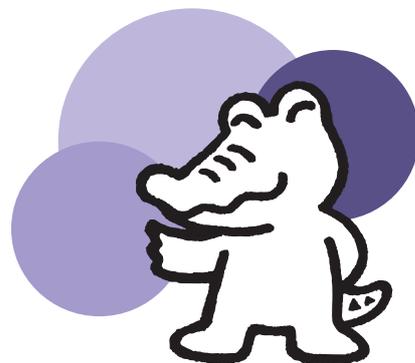
事業所	9
商業	10
工業	11

4 暮らしと環境

住宅・消防	12
交通・犯罪	13
環境	14
区民フェスティバル	15
市税・戸籍	16
生活保護・子育て	17
健康・選挙	18

コラム ～さよなら花月園競輪場～	19
------------------	----

つるみマップ	20
--------	----



～ご利用にあたって～

※ 構成比、総数の合計については、端数を四捨五入しているため、必ずしも内訳計と一致しない場合があります。

鶴見区のプロフィール

区の歩みと現状・誕生・地勢



鶴見区シンボルマーク
平成3年2月14日制定

区制施行: 昭和2年10月1日

〒230-0051

鶴見区鶴見中央三丁目20番1号

TEL: 510-1818 (総合案内)

FAX: 510-1889

- 面積: 32.38km² (平成27年9月1日現在)
- 人口: 284,037人 (")
- 世帯数: 132,439世帯 (")
- 区民の花: サルビア (平成3年11月制定)
- 区の木: サルスベリ (平成9年10月制定)
- マスコット: ワックン (昭和63年1月制定)



■ 区の歩みと現状

鶴見区は市の北東部に位置し、昭和2年10月1日、横浜市の区制施行により誕生しました。「鶴見」の名は鎌倉時代の史料からも現れており、源頼朝がこの地で鶴を放ったという伝説からその名がついたという説もありますが、「ツル」は「鶴」とは関係なく水路や河川の周辺の地を、「ミ」は「まわり、めぐり」を意味する語で、「ツルミ」は蛇行している鶴見川の地形を表しているという説もあります。

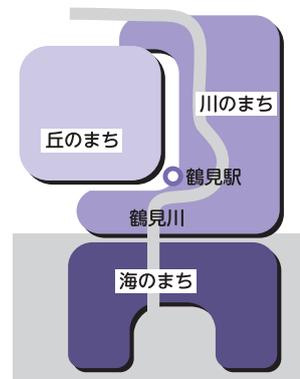
鶴見は、江戸時代のころより鶴見川の水運や東海道を往来する人によって、川筋や街道筋が賑わっていました。漁業が盛んだった沿岸部では、明治のころより埋め立てが進み、京浜工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。戦後は、高度経済成長とともに、商工業の集積と人口増加が進みました。

現在の鶴見区は、約28万人の人口を擁し、住宅地が連なる丘陵部「丘のまち」、鶴見川に沿った「川のまち」、臨海部の「海のまち」で構成されています。

住宅地が連なる市街地や、斜面樹林を背景とする神社仏閣が点在する「丘のまち」では、自然や歴史をいかしたまちづくりが進んでいます。

鶴見川を中心とした「川のまち」では、工場から住宅などへの利用転換が進み、工業、商業、住宅が混在するまちとなっています。外国人が多く住む国際色豊かな地域でもあり、鶴見川は、多くの区民が散歩などで親しむ鶴見区のシンボルとなっています。

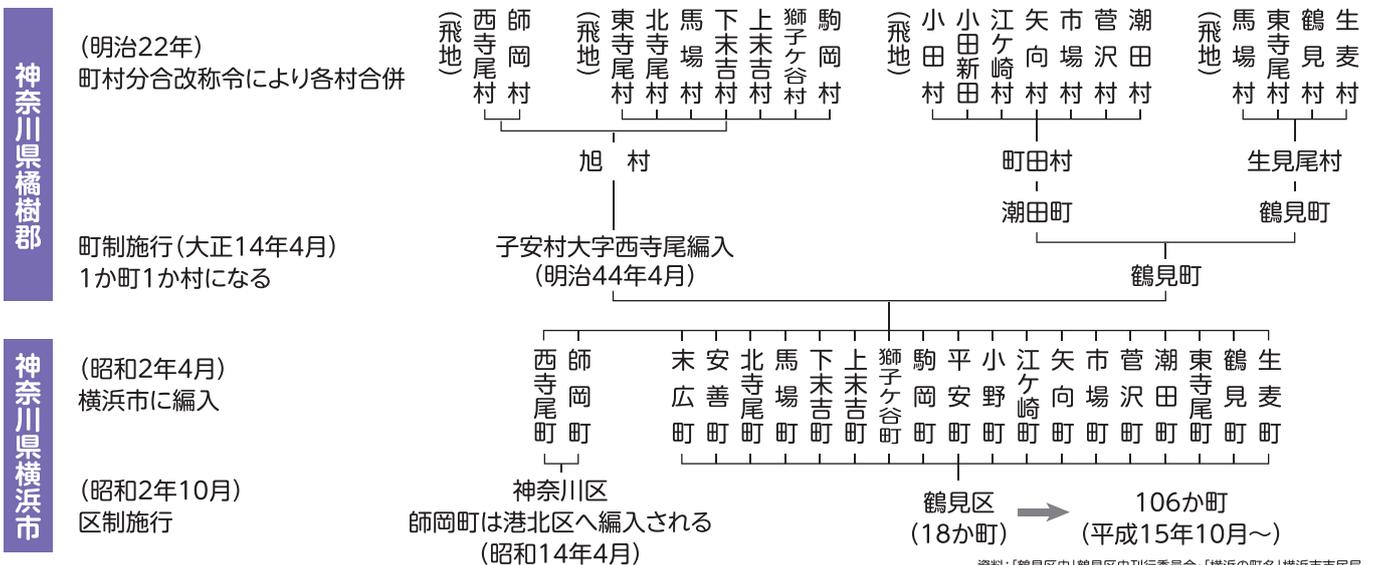
臨海部の「海のまち」では、生命科学の世界的な研究施設である「理化学研究所『横浜研究所』」や産学連携を推進する「産学共同研究センター」などが末広地区に整備され、国際的な一大研究拠点＝横浜サイエンスフロンティアとしての再編整備が進んでいます。



■ 地勢 平成27年4月1日現在

- ・極東: 扇島 ・極西: 上の宮二丁目
- ・東西距離: 8.16km
- ・極南: 大黒ふ頭 ・極北: 矢向六丁目
- ・南北距離: 10.13km
- ・最高地: 馬場四丁目
(海面からの高度47.2m)

■ 鶴見区の誕生



略年表

年	月	できごと
建久元(1190)	—	源頼朝、上洛 鴨志田十郎、馬場次郎、寺尾太郎、寺尾三郎太郎などが 随行したことが『吾妻鏡』に記されている(平安時代末期)
承久3(1221)	—	承久の乱 戦傷死者のなかに潮田四郎太郎、潮田六郎、寺尾又太 郎、寺尾左衛門尉などの名前が『吾妻鏡』に記されている
元弘3(1333)	—	新田義貞率兵・鶴見合戦おこる
建武元(1334)	—	『松蔭寺古図』作成(室町時代)
永享8頃(1436)	—	諏訪氏が寺尾城を築城 以後、初代諏訪右馬助から5代目馬之丞に渡って諏訪氏 が城主を受け継ぐ。
天正3(1575)	—	寺尾城主 諏訪氏滅亡
慶長5(1600)	10	関ヶ原の戦い
	6(1601)	五街道を整備 鶴見橋(現・鶴見川橋)架設
	16(1611)	二ヶ領用水完成
嘉永6(1853)	6	ペリー来航
安政6(1859)	6	横浜開港(6月2日開港記念日)
文久2(1862)	8	生麦事件おこる
明治5(1872)	9	12日新橋～横浜間鉄道開通、13日鶴見駅開業
	22(1889)	4 市制施行(人口11万6193人) 市制施行に併せて、鶴見地域に旭村、生見尾村 (後の鶴見町)、町田村(後の潮田町)誕生
	31(1898)	5 京浜急行電鉄の前身「大師電気鉄道」設立
	44(1907)	11 曹洞宗大本山總持寺 鶴見に移転
大正2(1913)	2	浅野総一郎、鶴見埋立組合を組織し、鶴見海岸 495ha(150万坪)の埋立に着手
	3(1914)	5 平岡廣高、児童遊園地「花月園」を開園
	12(1923)	9 関東大震災発生
	14(1925)	4 鶴見町(旧生見尾村)と潮田町(旧町田村)が合併 鶴見町となる
	15(1926)	3 鶴見線の前身「鶴見臨港鉄道」開通
	11	第一京浜国道全通
昭和2(1927)	4	鶴見町、旭村(現在の鶴見区全域と神奈川区・港 北区の一部)が横浜市に合併
	10	鶴見区誕生 人口6万2446人 (鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区で区制施行)
	3(1928)	6 市電子安線生麦～金港橋間開通
	18(1943)	7 私鉄鶴見臨港鉄道を国が買収し、国鉄鶴見線開業
	21(1946)	11 児童遊園地「花月園」閉園
	25(1950)	5 花月園競輪場開場
	29(1954)	8 三ツ池公園開園
	31(1956)	6 横浜市、政令指定都市に指定
	33(1958)	3 第二京浜国道全通
	9	台風22号で鶴見川氾濫 家屋水没648世帯、 床上浸水14000戸
	38(1963)	11 国鉄鶴見事故161人死亡
	41(1966)	8 市電生麦線廃止
	42(1967)	5 鶴見川、1級河川に指定
	44(1969)	5 「鶴見会館」開館
	50(1975)	4 獅子ヶ谷市民の森開園
	52(1977)	10 区制50周年 人口23万7678人 (『鶴見区史』編纂・出版)
	55(1980)	1 鶴見図書館開館
	12	末吉地区センター開館(鶴見区第1号)
	60(1985)	10 鶴見公会堂開館
	61(1986)	3 鶴見駅西口市街地改造事業完了 (本市施行の初の再開発事業)
	62(1987)	10 区制60周年 人口24万3751人 (『鶴見の歴史と人々の暮らし』編纂・出版)
	63(1988)	1 鶴見区新総合庁舎完成 鶴見区マスコット「ワックン」制定 「横溝屋敷」市指定文化財第1号に指定
平成元(1989)	9	ベイブリッジ・スカイウォーク完成
平成2(1990)	6	上寺尾小学校コミュニティハウス(鶴見区第1号) 開所
	7	大黒ふ頭埋立完成

年	月	できごと
平成3年(1991)	2	鶴見区のシンボルマーク制定
	11	区民の花(サルビア)決定
6(1994)	5	鶴見駅西口行政サービスコーナー設置 潮田交流プラザ(国際学生会館・地区センター・ 地域ケアプラザ(鶴見区第1号)・ふれあいショップ ポート)開館
	12	高速湾岸線(鶴見つばさ橋)開通
7(1995)	4	環境事業局鶴見工場本格稼働
8(1996)	7	大黒海づり公園開園 高齢者保養研修施設「ふれーゆ」オープン
9(1997)	5	入江川せせらぎ緑道開通
	10	区制70周年 人口25万883人 (『鶴見懐かしの写真集』を編纂・出版)
	10(1998)	10 区の木(サルスベリ)決定 中途障害者地域活動センター「ふれんどーる鶴見」 開所
11(1999)	7	馬場花木園開園
	10	福祉保健活動拠点開設
12(2000)	4	理化学研究所「横浜研究所」発足
	5	特別養護老人ホーム「新鶴見ホーム」開所
	11	障害者地域活動ホーム「幹」開所
	12	「馬場赤門公園」開園
13(2001)	3	「産学共同研究センター」開設
	4	「市立大学大学院(連携大学院)」開校
14(2002)	1	福祉保健センター開設
15(2003)	4	横浜新技術創造館「リーディングベンチャープラ ザ」開館
16(2004)	4	国道357号線開通
18(2006)	1	「ゆうづる」(鶴見市場地域ケアプラザ・鶴見市場 コミュニティハウス)開所
19(2007)	3	東部地域中核病院「済生会横浜市東部病院」開院
	5	鶴見中央地域ケアプラザ開所
	10	区制施行80周年 人口26万7447人 (『つるみみやげ』制定)
21(2009)	4	横浜サイエンスフロンティア高校開校
22(2010)	3	花月園競輪場閉園
	11	「鶴見会館」閉館
	12	鶴見中央コミュニティハウス開館 鶴見国際交流ラウンジ開館
23(2011)	3	区民文化センターサルビアホール開館 鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業完了
24(2012)	1	生麦地域ケアプラザ開所
	11	鶴見駅 駅ビル「リアル鶴見」開業
25(2013)	4	鶴見駅西口第二自転車駐輪場オープン(1,000台を収容)
27(2015)	2	馬場地域ケアプラザ開所
	8	二ツ池公園一部公開
	11	鶴見駅東口駅前広場整備完了

コラム

江戸時代の鶴見

江戸時代、鶴見の東海道筋は、街道沿いの生麦村、鶴見村、市場村などに人が集まり、神奈川宿と川崎宿の間で「間の宿」として、賑わいをみせていました。鶴見地域の大部分は幕府の直轄領(天領)で、代官が治めており、旗本領としては、獅子ヶ谷・駒岡・潮田(一時期)などがありました。

また、江戸時代の生麦は『御菜八ヶ浦』の一つとして栄え、新鮮な魚介類を江戸城に献上していました。御菜八ヶ浦とは、江戸城の御菜御着を定期的に献上する他、各種の船役を勤める見返りとして、現在の東京湾の漁猟に特権を認められていた専業漁業村落のことです。生麦以外には、金杉、品川、大井御林、羽田(いずれも現東京都)、神奈川獵師町、新宿(いずれも現神奈川区)の7浦が指定されていました。

鶴見区的主要指標

区分	鶴見区	横浜市	18区中順位	基準日
人口	284,037人	3,719,589人	3位	H27.9.1
世帯数	132,439世帯	1,646,676世帯	2位	H27.9.1
面積	32.38km ²	435.21km ²	4位	H27.9.1
人口密度	8,772人/km ²	8,547人/km ²	8位	H27.9.1
平均年齢	43.20歳	44.72歳	4位 ※若い順	H27.1.1
老年人口比率 (65歳以上)	20.0%	22.9%	14位	H27.1.1
年少人口比率 (15歳未満)	13.3%	12.8%	6位	H27.1.1
事業所数 (H26経済センサス基礎調査)	9,050	119,509	3位	H26.7.1
事業所従業者数 (H26経済センサス基礎調査)	110,405人	1,491,163人	5位	H26.7.1

※順位は数値の大きいものから並べた際の順位です

コラム

区民意識調査より



平成24年度鶴見区区民意識調査の結果によると、鶴見区の特徴、イメージとして、「商業、工業、住宅が混在したまち」、「交通の利便性が高いまち」「海岸線の埋立で発展した工業都市」と考える区民が多く、また、半数以上の区民が鶴見区に「愛着を持ち」、「住み心地が良い」と考えています。

生活環境全般に対する重要度については、「バス・電車の便」のほか、「災害対策」、「防犯対策」、「地域医療」を重要と考える区民がそれぞれ7割を超え、東日本大震災以降のまちの安全・安心に対する関心の高さがうかがえます。

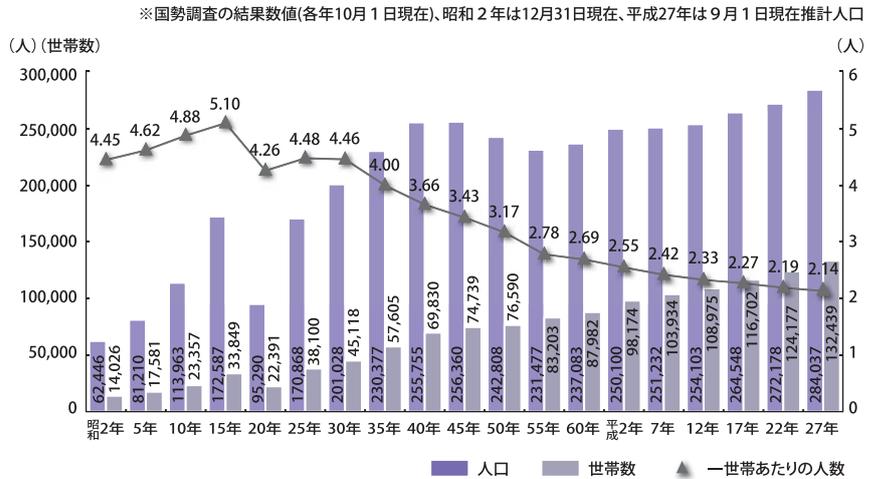


人口の動向

人口及び世帯数の推移

戦後、増え続けていた人口も昭和43年7月の260,777人をピークに減少し、昭和56年4月には229,945人と落ち込みましたが、その後は緩やかな増加傾向が続いています。一方、世帯数は年々増加しています。

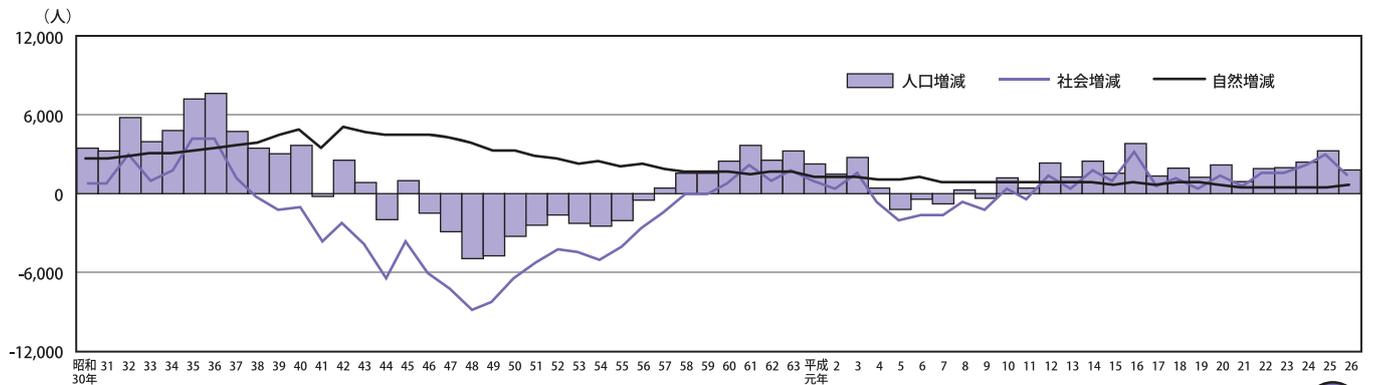
平成27年9月1日現在、鶴見区の人口は284,037人であり、世帯数は132,439世帯となっています。



人口増減・社会増減・自然増減の推移

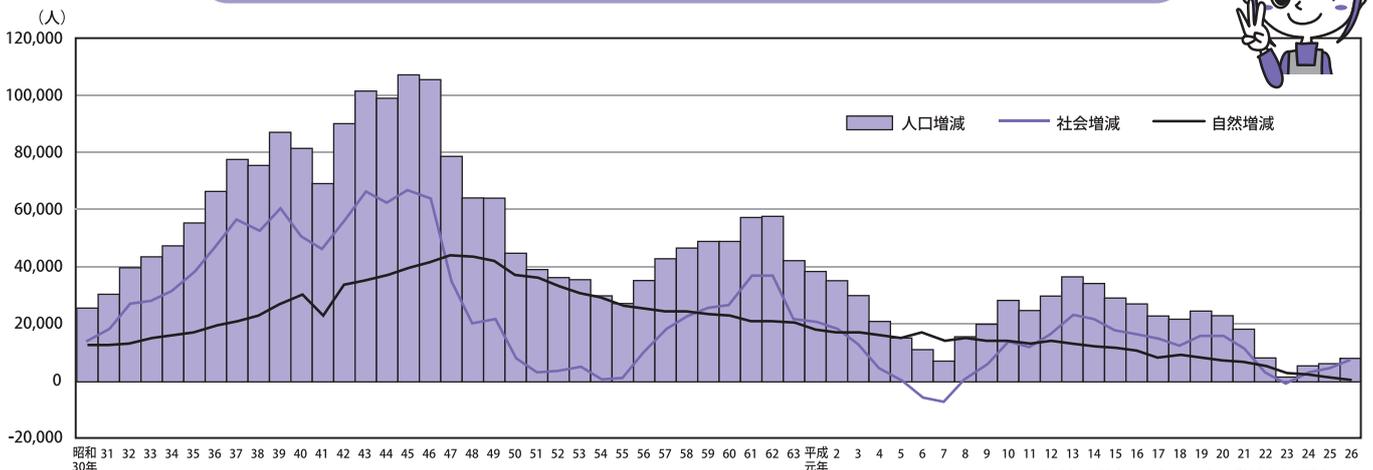
鶴見区の人口は、増減を繰り返しながら推移しています。昭和40年代後半に、転出者数が転入者数を上回ったこと(社会減)により、人口が大きく減少した時期がありました。その後、昭和50年代後半から人口が増加したものの、いわゆるバブル期を経て再び社会減の傾向が続きましたが、平成12年からは社会増に転じ、近年は比較的安定した数で増加しています。

◀ 鶴見区 ▶



平成26年中の鶴見区の人口増加率は、磯子区、港北区に次いで市内18区中第3位でした!

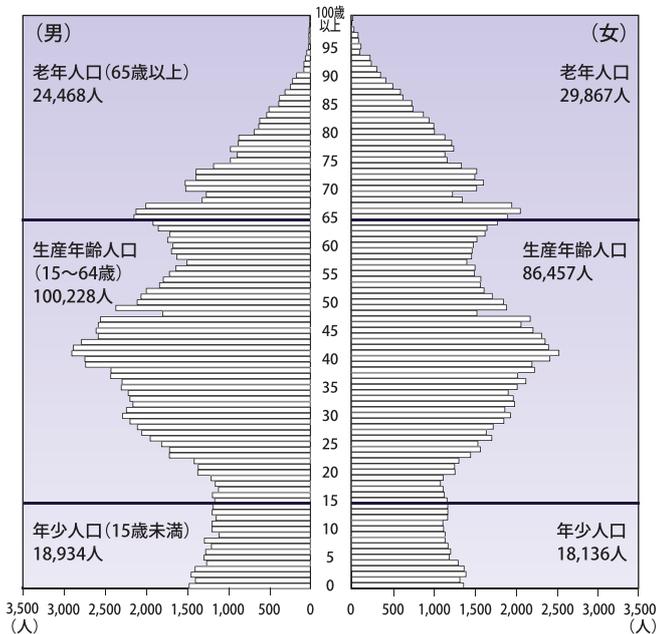
◀ 横浜市 ▶



資料:「横浜市の人口～人口動態と年齢別人口」

年齢別人口の状況

鶴見区人口ピラミッド (H27.1.1現在)



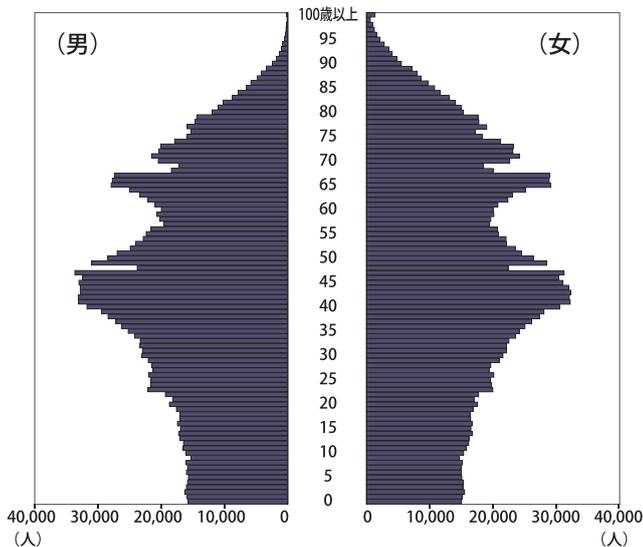
鶴見区の人ロピラミッドには大きく2つの特徴があります。

- ① 40歳前後の第二次ベビーブーム時期の人口が、65歳前後の第一次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。
- ② 0~10歳までの人口が増加しており、ピラミッドの裾野が全国及び横浜市のピラミッドに比べて広がっています。

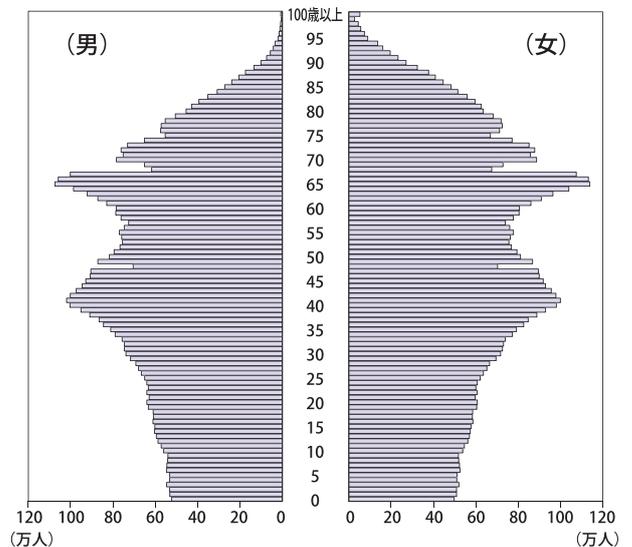


鶴見区は年少人口が増加の傾向にあるんだね!

横浜市人口ピラミッド (H27.1.1現在)



全国人口ピラミッド (H26.10.1現在)



行政区別平均年齢 (H27.1.1現在)

鶴見区の平均年齢は、平成27年1月1日現在43.20歳で、これは18区中、4番目に若い値です。市内で最も平均年齢が低い区は、都筑区で40.49歳、一方高い区は、旭区で47.00歳となっています。

★平均年齢が低い区 BEST4★

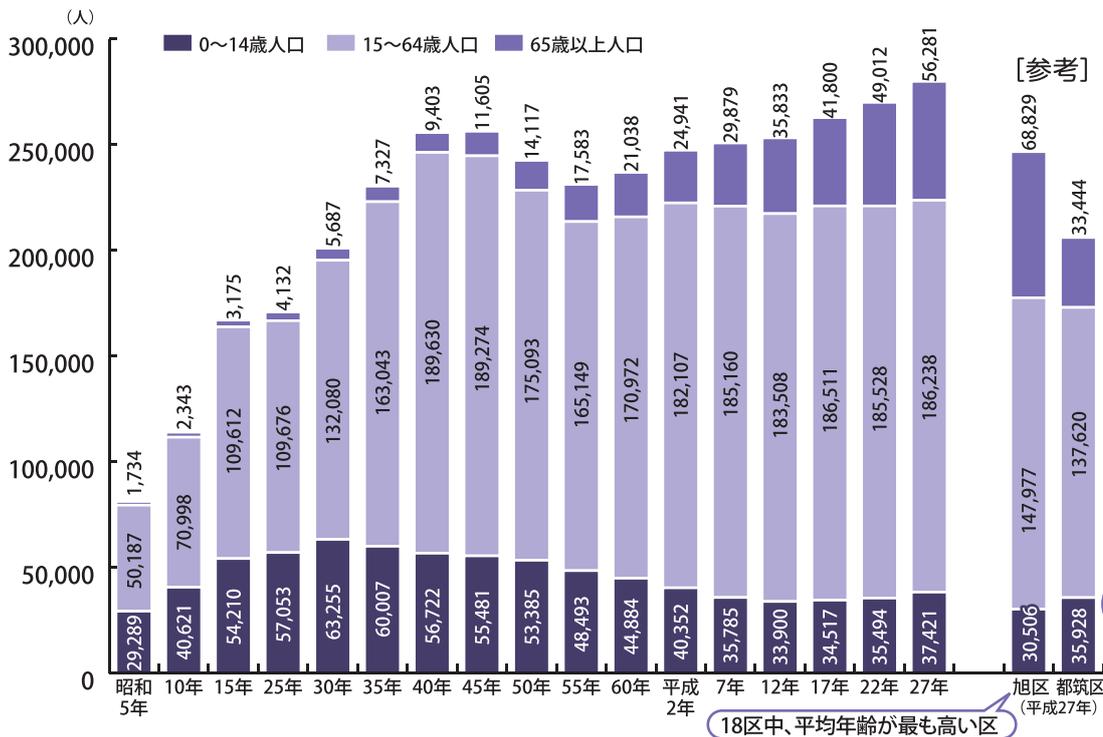
1位	都筑区 (40.49歳)
2位	港北区 (42.58歳)
3位	青葉区 (42.86歳)
4位	鶴見区 (43.20歳)

★平均年齢が高い区 BEST4★

1位	旭区 (47.00歳)
2位	栄区 (46.92歳)
3位	南区 (46.67歳)
4位	磯子区 (46.47歳)

資料:「横浜市の人口～人口動態と年齢別人口」

年齢3区分別人口の推移



18区中、平均年齢が最も低い区

18区中、平均年齢が最も高い区

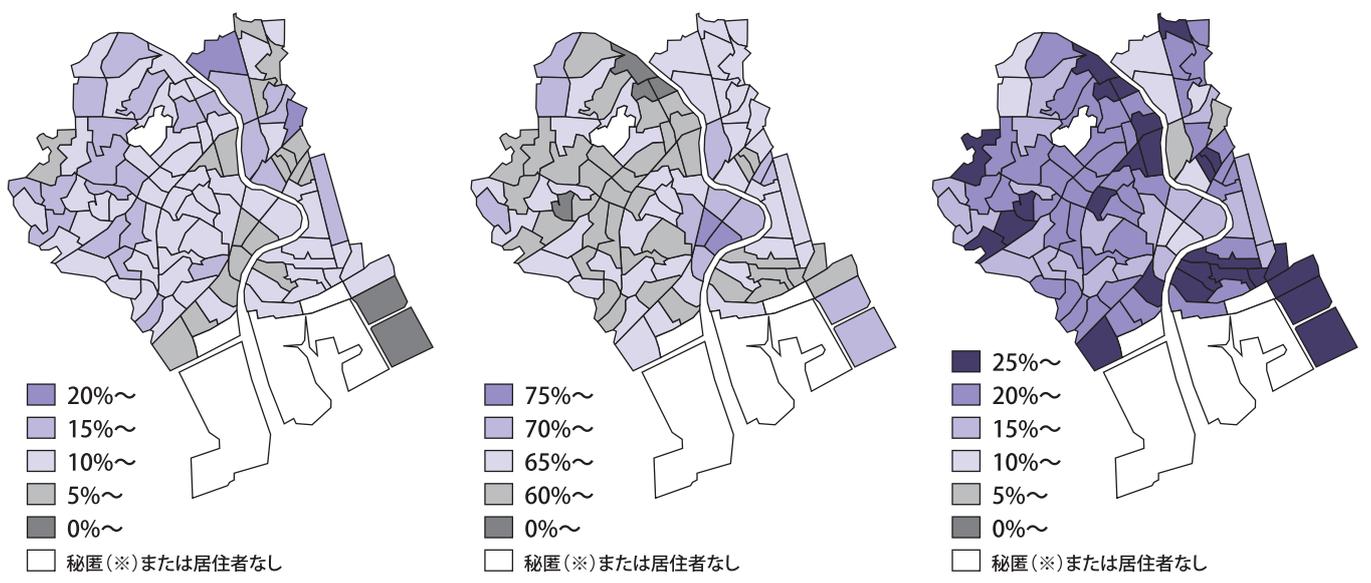
※昭和5年～平成22年については国勢調査の結果数値(各年10月1日現在)、平成27年は1月1日現在推計人口

年齢3区分別人口をみると、老年人口の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳の年少人口と、65歳以上の老年人口の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。また、0～14歳の年少人口は、昭和30年以降減少しておりましたが、平成12年以降は、微増しています。



地図でみる鶴見 ～年少・生産年齢・老年の各人口比率～

住民基本台帳等(H27年3月31日現在)
※大黒ふ頭、扇島は省略しています。



(※) データを示すことで個人が特定される恐れのあるものは「秘匿」としています。

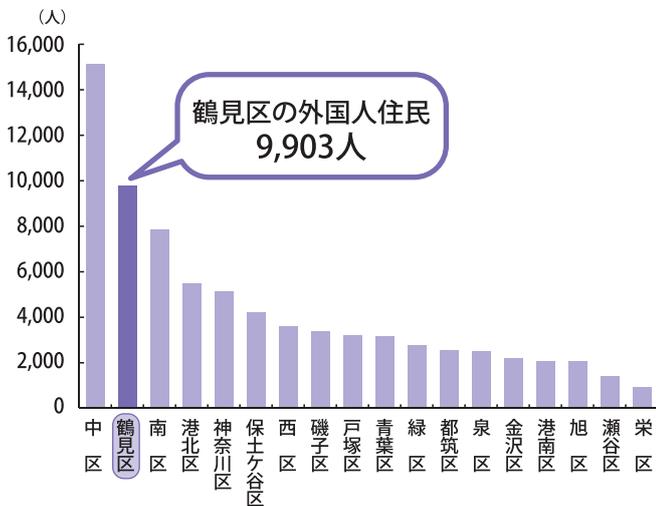
外国人住民

鶴見区の外国人住民

平成27年3月31日現在の鶴見区の外国人住民数は9,903人です。これは中区に続いて市内2番目の多さとなっています。

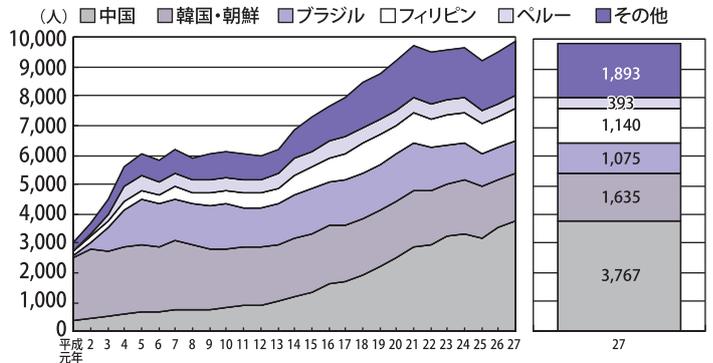
国籍別にみると、中国、韓国・朝鮮、フィリピンの順に多くなっています。横浜市全体と比べると、鶴見区はブラジルの構成比が大きいことが分かります。

◆18区別外国人住民数◆

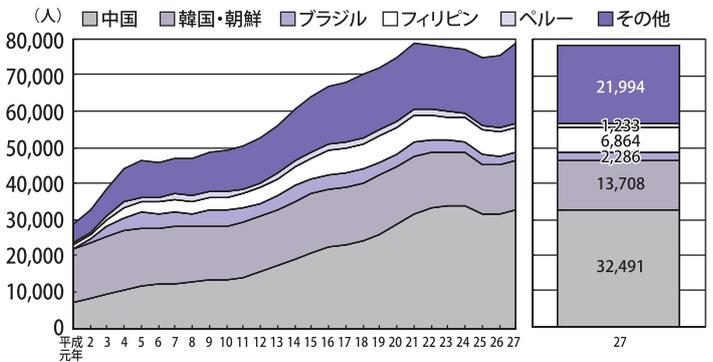


◆国籍別外国人住民数の推移◆

◀鶴見区▶



◀横浜市▶



資料 「横浜市統計書」各年3月末現在



鶴見区は、外国人児童数(※)が
288人で、18区中1番多いよ!

※ 市立小学校に通う外国人児童の数
資料:横浜市教育委員会「市立学校現況」
(平成27年5月1日現在)

※注意※

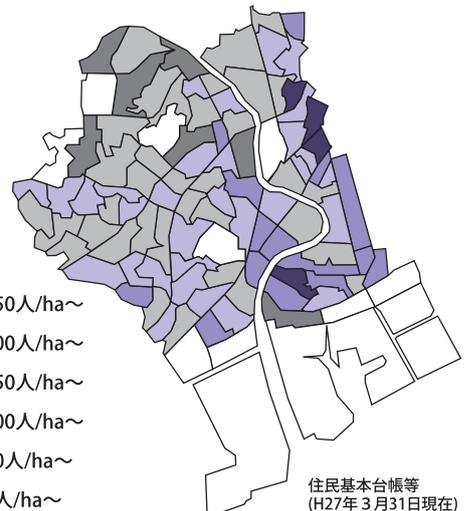
平成24年7月9日に「外国人登録法」が廃止になり、改正住民基本台帳法の施行により、外国人住民も住民基本台帳に記載されるようになりました。



地図でみる鶴見 ~人口密度~



※大黒ふ頭、扇島は省略しています。



住民基本台帳等
(H27年3月31日現在)

鶴見区内で人口密度の高い町は、尻手一・三丁目、本町通、市場上町などです。

また、鶴見駅周辺と、川崎市との市境の人口密度が高い傾向にあります。



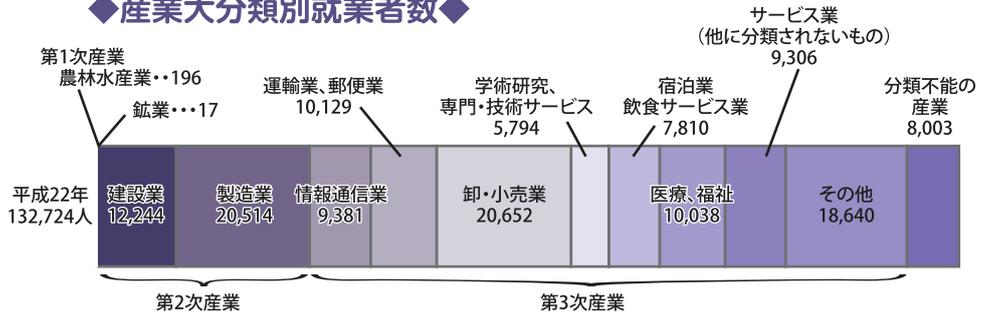
- 250人/ha~
- 200人/ha~
- 150人/ha~
- 100人/ha~
- 50人/ha~
- 0人/ha~

就業状況・労働力人口

就業状況

鶴見区の就業者は、第3次産業、第2次産業、第1次産業の順に多く、産業大分類別にみると、卸売業・小売業の就業者数が20,652人と最も多くなっています。

◆産業大分類別就業者数◆

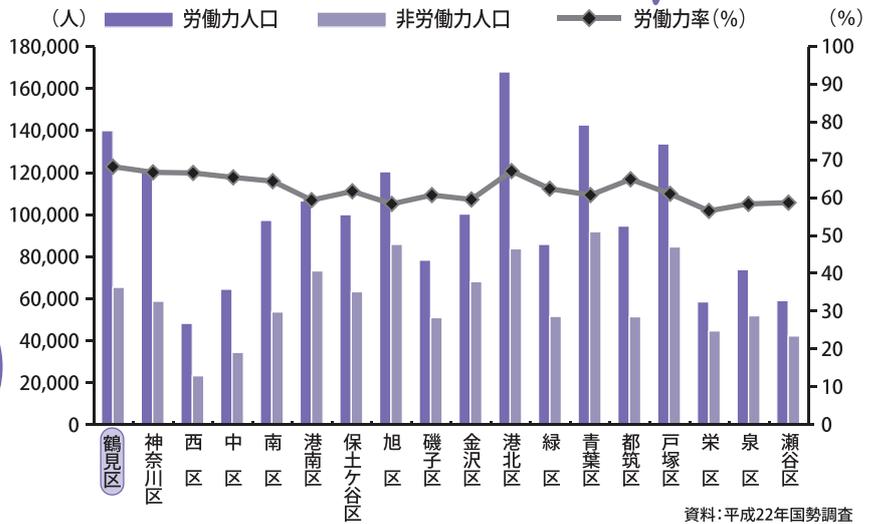


労働力人口・労働力率

鶴見区の労働力人口は、140,424人で、行政区別にみると、港北区、青葉区に次いで、3番目の多さです。一方、鶴見区の労働力率は68.1%で、18区中1位となっています。

◆行政区別労働力状態◆

15歳以上人口に占める労働力人口 (就業者と完全失業者の計) の割合



資料：平成22年国勢調査



鶴見区の労働力率は18区の中で一番高いんだね!

流出人口・流入人口・昼夜間人口

流出人口・流入人口

鶴見区に常住(居住)する15歳以上の就業者及び通学者数は144,457人で、そのうち、区内で就業・通学する者は48,411人、市内他区へ就業・通学する者は21,135人となっています。また、横浜市以外では、鶴見区からは東京都への流出が40,982人と多くなっています。

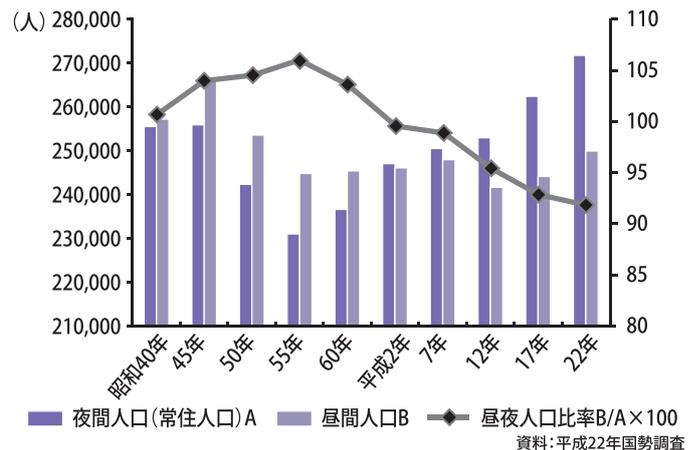
昼夜間人口

平成22年国勢調査で、鶴見区の昼夜間人口比率が低下した一方、横浜市では前回より1.1ポイント増加し、91.5になりました。

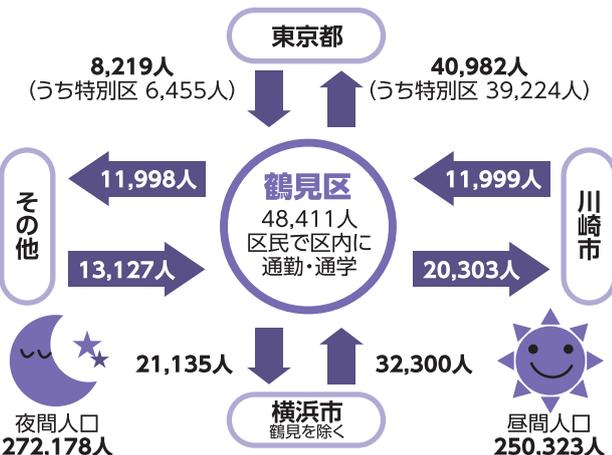
平成22年の鶴見区の昼間人口は250,323人、夜間人口は272,178人であり、平成2年以降、夜間人口が昼間人口を上回っています。

また、昼夜間人口比率は92.0で昭和55年の106.1をピークに減少を続けています。

◆昼夜間人口・昼夜間人口比率の推移◆



資料：平成22年国勢調査

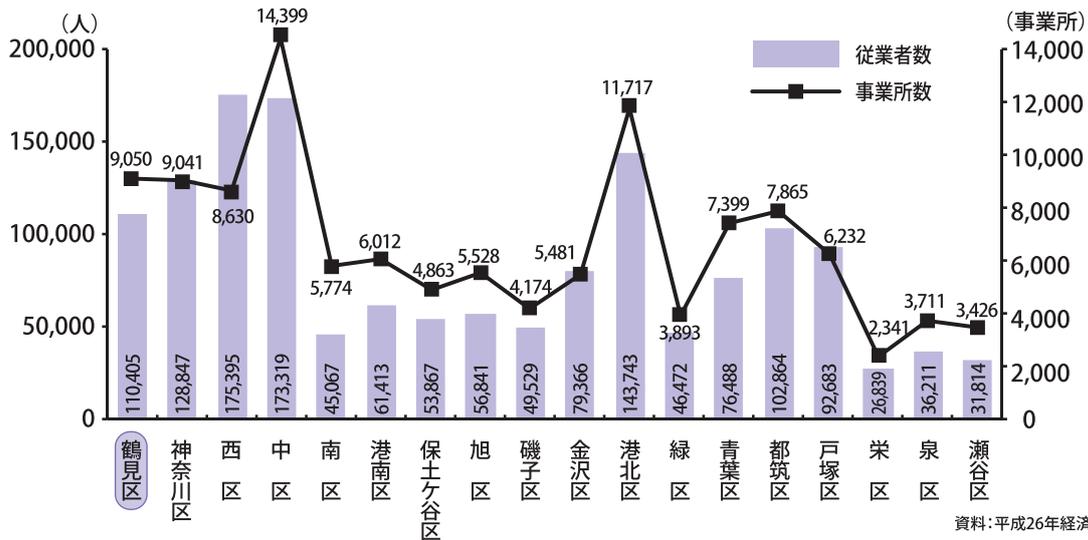


事業所

区別事業所数・従業者数

平成26年の鶴見区の事業所数は、9,050事業所となっており、18区の中では、中区(14,399事業所)、港北区(11,717事業所)に続き、3番目の多さとなっています。

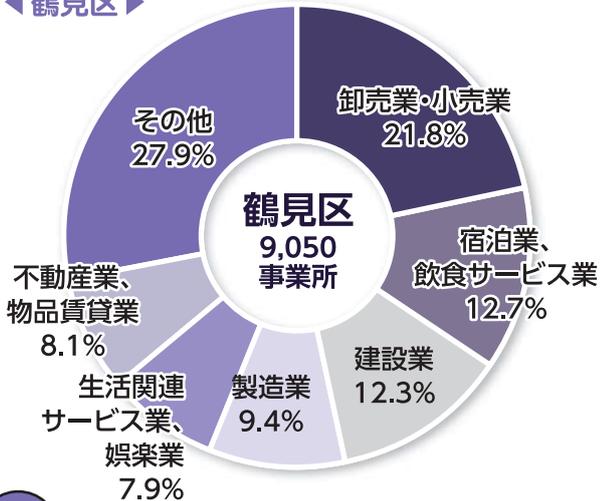
従業者数については、110,405人で、西区、中区、港北区、神奈川区に続いて5番目に多くなっています。



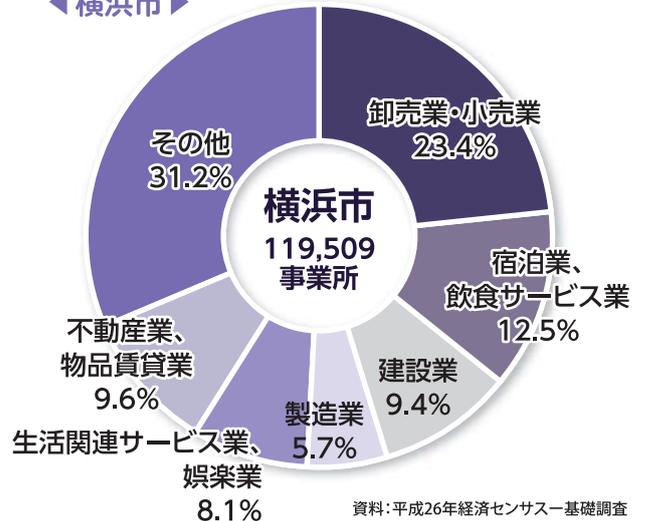
資料：平成26年経済センサス基礎調査

事業所数の産業大分類別構成比〈鶴見区・横浜市〉

◀ 鶴見区 ▶



◀ 横浜市 ▶



資料：平成26年経済センサス基礎調査



鶴見区の事業所数の構成比は、大きい順に、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、建設業、製造業となっています。

横浜市は、製造業が6,849事業所で、構成比では約5.7%であるのに対し、鶴見区の製造業は855事業所で約9.4%を占めています。製造業の事業所の市内約8分の1が鶴見区にあり、鶴見区は製造業の割合が高いことが分かります。

商業

横浜市と鶴見区の年間販売額の構成比をみると、卸売業では、「建築材料、鉱物・金属材料等」が、小売業では、「飲食料点小売業」の割合が、鶴見区では高くなっています。
年間商品販売額の鶴見区の市内順位は、18区中8位となっています。

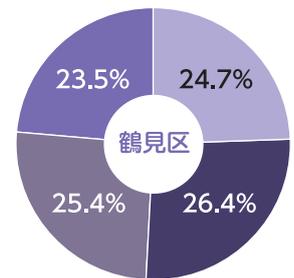
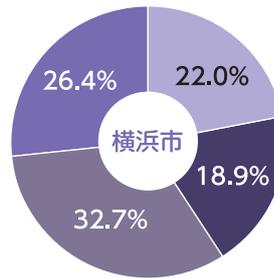
鶴見区の商店数は、中区、港北区、西区、神奈川区に次いで18区内中5番目の多さとなっています。



産業中分類別年間商品販売額構成比

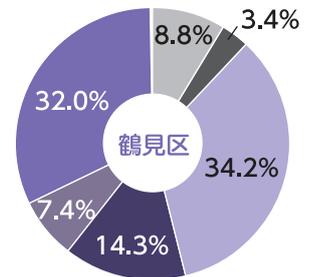
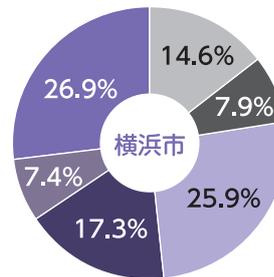
卸売業

- 飲食料品卸売業
- 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業
- 機械器具卸売業
- その他の卸売業



小売業

- 各種商品小売業
- 織物・衣服・身の回り品小売業
- 飲食料品小売業
- 機械器具小売業
- 無店舗小売業
- その他の小売業



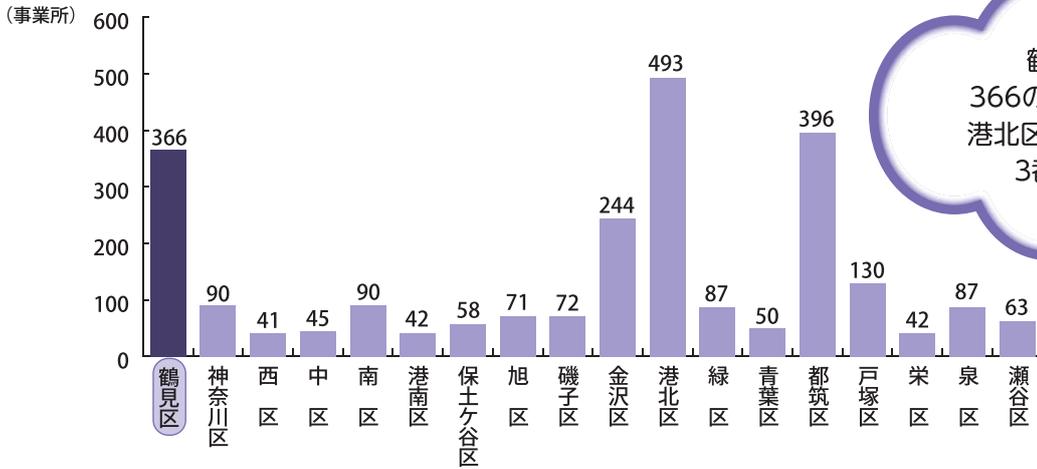
区別商店数・従業者数・年間商品販売額

区別	商店数			従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	年間商品 販売額順位
	総数	卸売業	小売業			
横浜市	18,925	4,708	14,217	203,816	8,579,630	
鶴見区	1,326	324	1,002	11,872	372,072	8位
神奈川区	1,386	510	876	16,249	991,192	3位
西区	1,653	364	1,289	19,893	1,399,605	1位
中区	1,971	552	1,419	17,045	957,444	4位
南区	969	228	741	6,638	139,302	17位
保土ヶ谷区	785	168	617	6,820	296,236	10位
磯子区	634	129	505	6,265	170,584	15位
金沢区	954	298	656	10,323	407,496	7位
港北区	1,741	555	1,186	21,823	1,300,907	2位
戸塚区	1,073	202	871	14,265	471,320	6位
港南区	957	148	809	10,956	263,212	11位
旭区	863	159	704	8,709	222,402	12位
緑区	630	138	492	7,171	185,767	13位
瀬谷区	596	152	444	5,756	173,955	14位
栄区	362	88	274	3,424	81,302	18位
泉区	535	103	432	6,191	144,742	16位
青葉区	1,203	200	1,003	12,880	346,823	9位
都筑区	1,287	390	897	17,536	655,272	5位

資料：平成26年商業統計調査

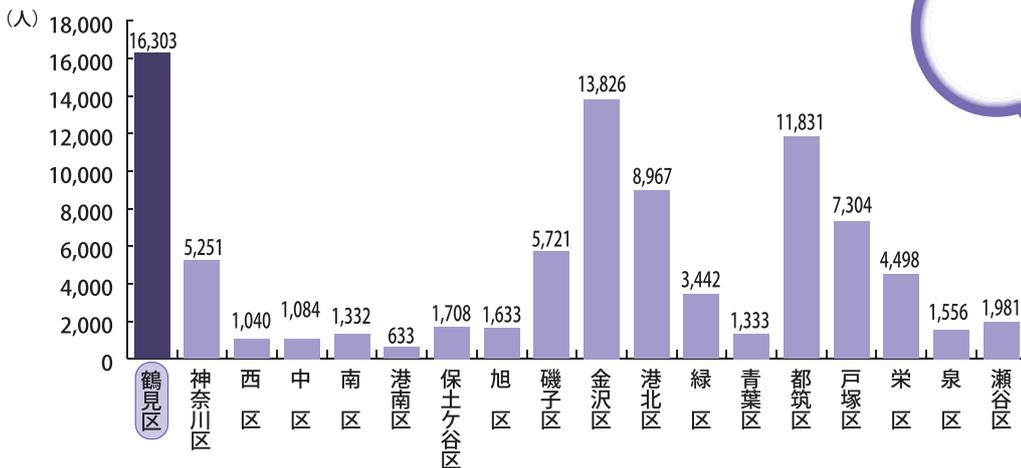
工業

区別事業所数 (工業)



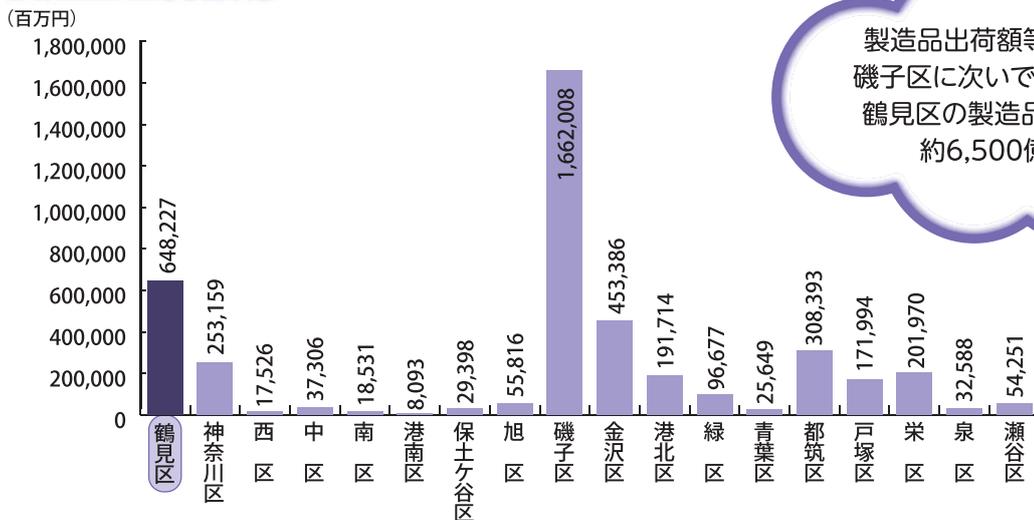
鶴見区内には
366の事業所があって、
港北区、都筑区に続いて
3番目に多いよ!

区別従業者数 (工業)



鶴見区の従業者数は
16,303人で、
18区中、1番多いよ!

製造品出荷額等



製造品出荷額等については、
磯子区に次いで18区中第2位!
鶴見区の製造品出荷額等は、
約6,500億円だよ!

鶴見区は、高度経済成長期に日本の重工業を支えた京浜工業地帯の中心でした。事業所数については、昭和48年の1,096事業所をピークに、平成26年には366事業所と約3割に減少し、また従業員数についても、60,000人を上回っていた昭和30年代後半と比べて、約4分の1となりましたが、それでも鶴見区は、横浜市内の工業で重要な位置を占めています。

資料：平成26年工業統計調査(従業者4人以上の事業所対象)

住宅

住宅の建て方別の世帯数

(単位:世帯)

	鶴見区	横浜市
一戸建	40,552	586,377
長屋建	1,439	27,122
共同住宅	77,245	926,880
その他	374	3,142
合計	119,610	1,543,521

住宅の建て方をみると、共同住宅が最も多く77,245世帯(住宅に住む一般世帯数に占める割合64.6%)と2世帯に1世帯以上が共同住宅に住んでいることとなります。次いで一戸建てが40,552世帯(33.9%)となっています。

共同住宅に住む世帯の割合は、横浜市全体の60.0%(926,880世帯)と比べ4.6ポイント上回っています。

資料:平成22年国勢調査



持ち家に住む一般世帯は
56.5%だよ!



コラム

鶴見区の用途別水道使用量

平成26年度の鶴見区の水道使用量は、約2,909万㎡でした。そのうち、公衆浴場用が約15万㎡で、横浜市全体の公衆浴場用水道使用量(約85万㎡)の約20%を占めています。

ちなみに、鶴見区の平成26年末の公衆浴場数は34です。近年は減少傾向が続いていますが、18区中、中区に次いで2番目の多さとなっています。

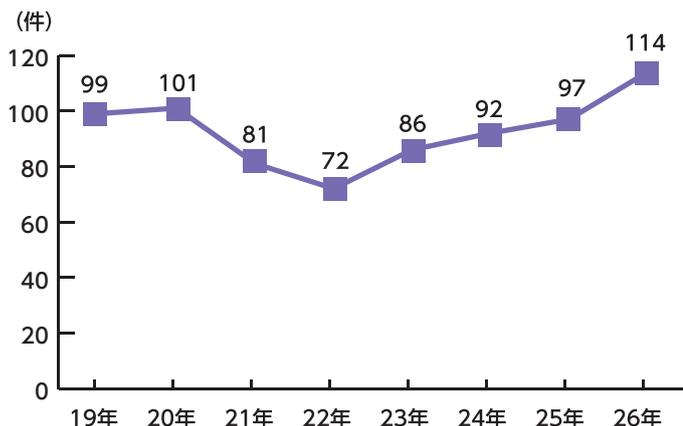
資料:水道局及び横浜市統計書

消防

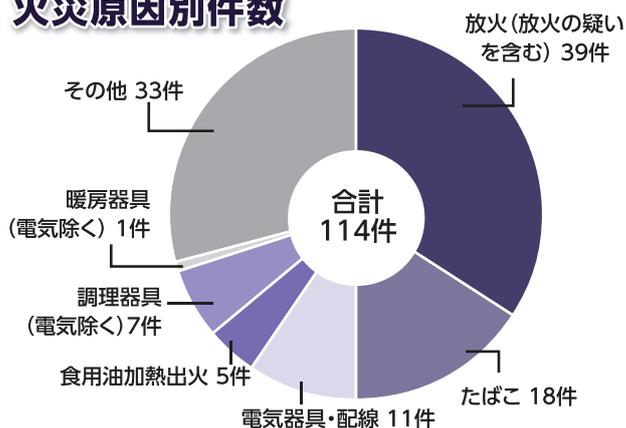
平成26年の火災発生件数は、114件で、4年連続で増加しました。火災の原因としては、「放火(放火の疑いを含む)」が39件で一番多く、次いで「たばこ」が18件、「電気機器・配線」が11件となっています。

また、平成26年の救急車の出動件数は、13,457件で、出動理由としては、急病が8,980件と一番多く、全体の65%以上を占めています。

火災発生件数の推移



火災原因別件数



救急車出動理由

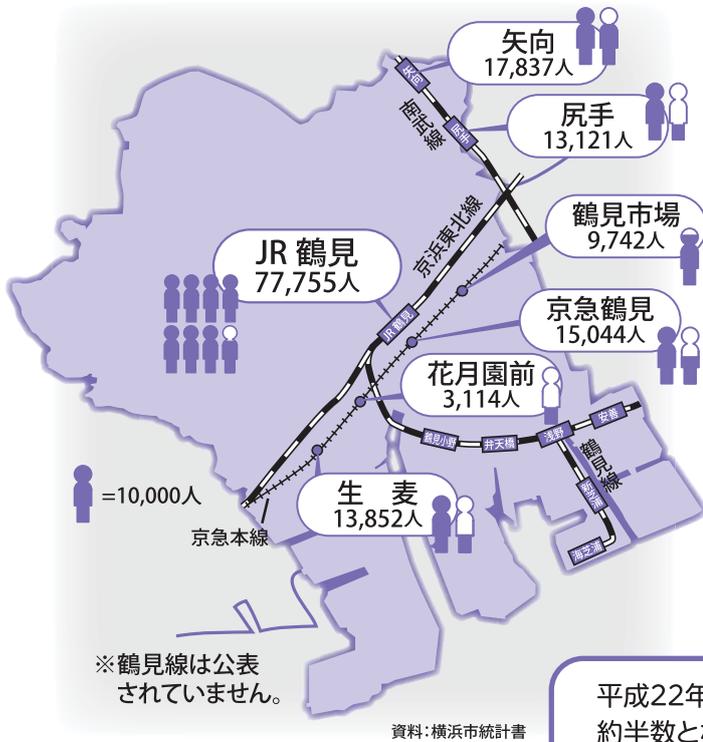


救急車は、平均約40分に1回出動している計算になります!!

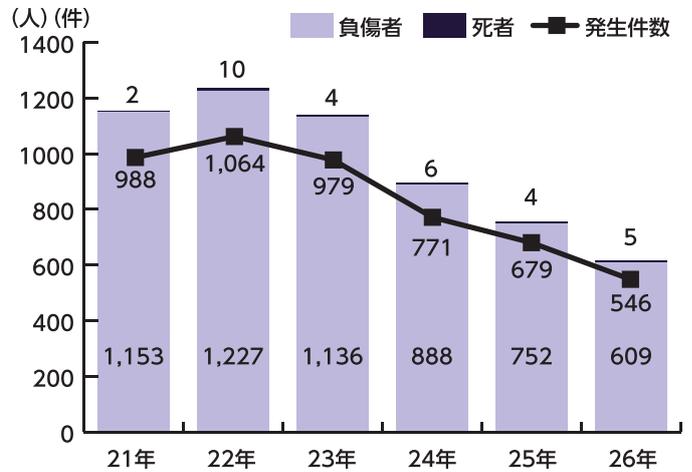
資料:鶴見消防署

交通

区内駅別一日平均乗車人員 (平成26年度)



交通事故発生件数と死者・負傷者の推移



平成26年中の交通事故発生件数は546件、負傷者数は609人となっており、4年連続の減少となりました。

資料: 鶴見警察署

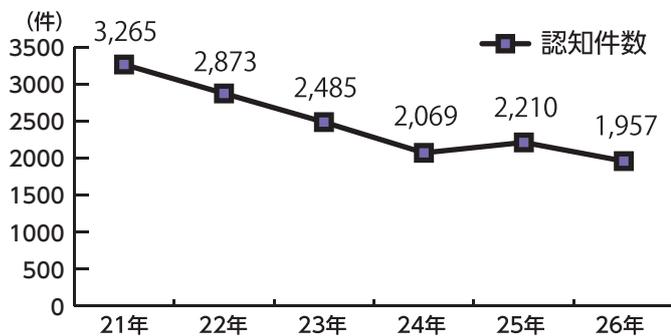
平成22年と比べて、交通事故発生件数は約半数となりました。



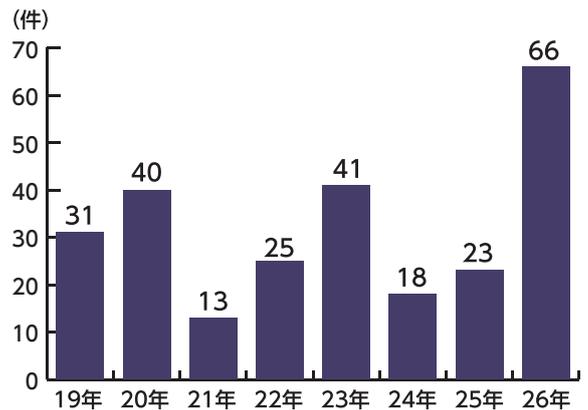
犯罪

犯罪(刑法犯)認知件数の推移

平成26年中の鶴見署の犯罪認知件数は、1,957件で、昨年の件数より減少しています。ここ6年間で最も少ない件数でした。



振り込め詐欺件数推移



犯罪(刑法犯)の種類別認知件数 (平成26年)

	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯		知能犯	風俗犯	その他の刑法犯	総数
			自転車	その他				
鶴見署	10	143	552	869	115	16	252	1,957
横浜市	173	2,059	6,340	12,999	1,325	327	2,923	26,146

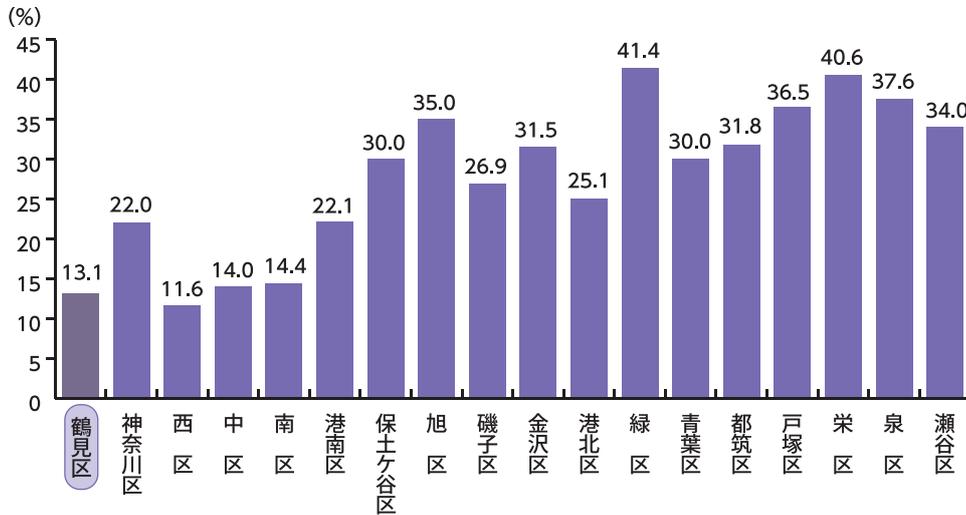
犯罪件数は前年に比べて250件ほど減少しました。横浜市全体では4000件以上減少しました。



資料: 鶴見警察署

環境

緑被率 (平成26年調査)



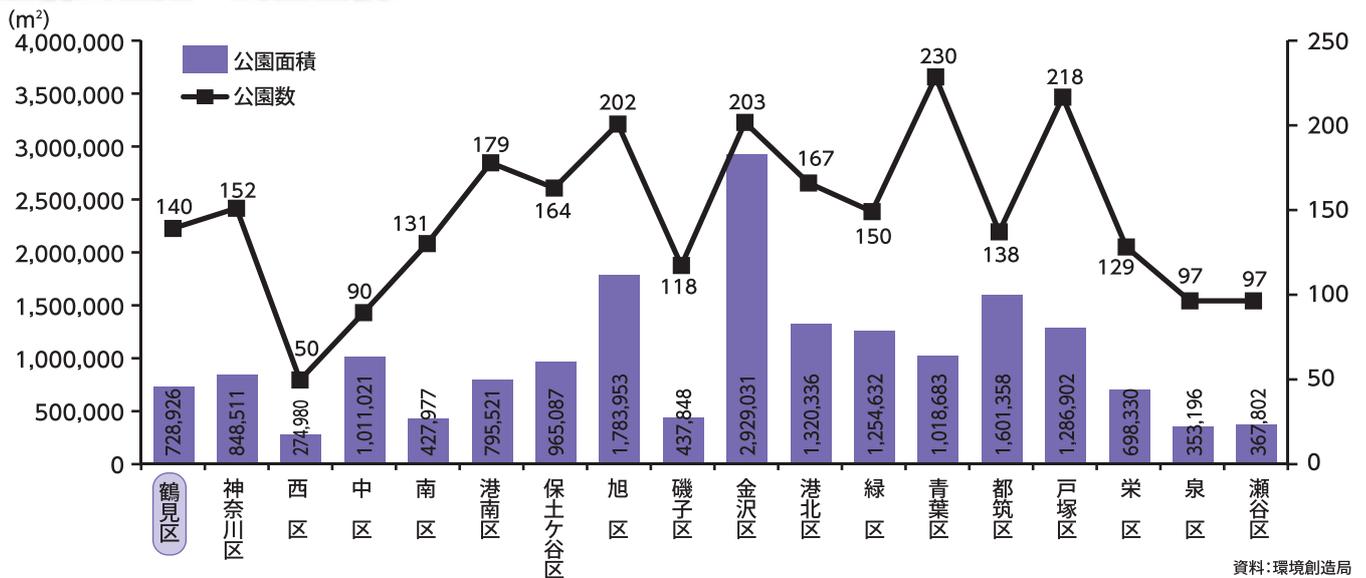
鶴見区の緑被率は、18区中17位です。鶴見区の緑被率は、年々減少傾向にあります。



資料: 横浜市統計書

区別公園数・公園面積 (※県立公園含む)

(平成27年7月1日現在)



資料: 環境創造局

鶴見区には、平成27年7月1日現在、140の公園があり、その面積は728,926㎡となっています(県立公園含む)。そのうち、県立公園である三ツ池公園が、区内の公園面積数の約4割を占めています。

鶴見川について

鶴見川は、全長42.5キロメートル、横浜市内唯一の一級河川で、多摩丘陵の山中の源流から、区内を北から南になだらかに蛇行しながら流れ、東京湾に注いでいます。

流れが緩やかで水量が豊かなことから、古くから流域の水運に使われ、内陸部の農産物は地先の河岸から河口に運ばれ、外からの物資もまた鶴見川によって内陸部に運ばれ、川筋はたいへん賑わいました。しかし、勾配がなだらかなため、満潮時には、海水が鶴見川を逆流し、農業用水には適していませんでした。そのため、駒岡、末吉などの鶴見川西側ではため池を作って、田に水を引いていました。現在も残る二ツ池、三ツ池は当時のため池です。対岸の矢向、市場などでは、多摩川から引いた二ヶ領用水路を農業用水として使用していました。

また、ひとたび大雨が降ると洪水を繰り返してきたため、昔から「暴れ川」と呼ばれ、流域の人々の生活や命をおびやかしてきましたが、現在では、護岸整備が進み、昭和57年の台風18号による氾濫以降、大規模な被害は発生していません。近年は、流域の都市化に伴い、工場や生活排水等により、鶴見川の汚染が進みましたが、現在、川をきれいにしようと環境保全活動が進んでいます。



区民フェスティバル

鶴見区では、毎年、春(三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル)・夏(鶴見川サマーフェスティバル)・秋(つるみ臨海フェスティバル)の3回、区民フェスティバルを開催しています。それぞれのフェスティバルは、会場周辺の地区連合町内会や地元企業により組織された実行委員会の企画運営により、開催されています。

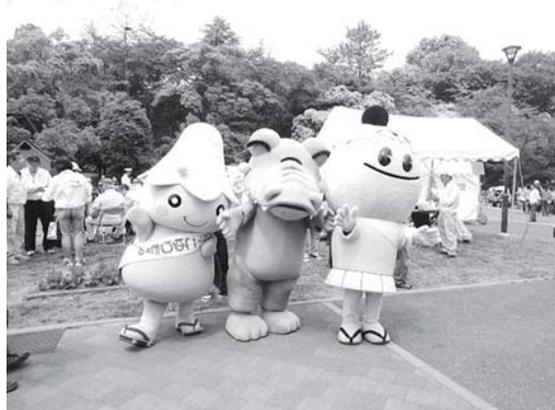
三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル

多数の区民ボランティア参加のもと、ステージでの各団体の発表や、フリーマーケット、中学生ボランティアによる牛乳パックの回収などを通じて、「文化と環境」に関心を持ち、積極的に理解することを目的に開催しました。

また、鶴見区の友好交流都市である、福島県西会津町・棚倉町をはじめとする東北被災地県からも出店があり、特産物の販売や都市PRが行われました。

会場 県立三ツ池公園 **日時** 平成27年5月17日(日)

(天候不良のため、5月16日(土)より順延して実施)



西会津町「こゆりちゃん」、鶴見区「ワックン」、棚倉町「たなちゃん」

鶴見川サマーフェスティバル



夏の夜空を彩る花火

区民の“ふるさと意識”を醸成するとともに、住民相互の連帯と親睦を深めることを目的に開催しました。

川のイベント(Eボート体験、クルーズ)、模擬店・PRブース、鶴見川ダンス&コンサート、鶴見川花火大会など、1日中楽しめるイベントとなっています。

特に、夏の夜空を彩る約1,400発の花火は、鶴見川の夏の風物詩として、区民の皆様に親しまれています。

また、多数の区民ボランティアに支えられ、無事に開催することができました。

会場 鶴見川および佃野公園周辺 **日時** 平成27年8月22日(土)

つるみ臨海フェスティバル

「鶴見大好き 私のふるさとーみんなで創ろう つるみ臨海部」をテーマとして、臨海部に親しみながら誰もが楽しめるふれあいの場を提供し、子どもから高齢者まで、安心して暮らしていけるあたたかな地域づくりを目指して、開催しました。

ステージでは、地元団体による器楽演奏やダンス等が披露され、出店ブースでは、大分県佐伯市鶴見から「寿司トラック」がやってきました。また、沖縄の食と文化を体験できるリトルおきなわゾーンや、移動動物園によるポニー乗馬体験、動物とのふれあいコーナーが設けられ、会場は大いに賑わいました。



団体によるステージイベント(サンバショ-)

会場 入船公園

日時 平成27年10月17日(土)



上記、3つの区民フェスティバル以外にも、区内ではさまざまなお祭りやイベントが行われています!

市 税

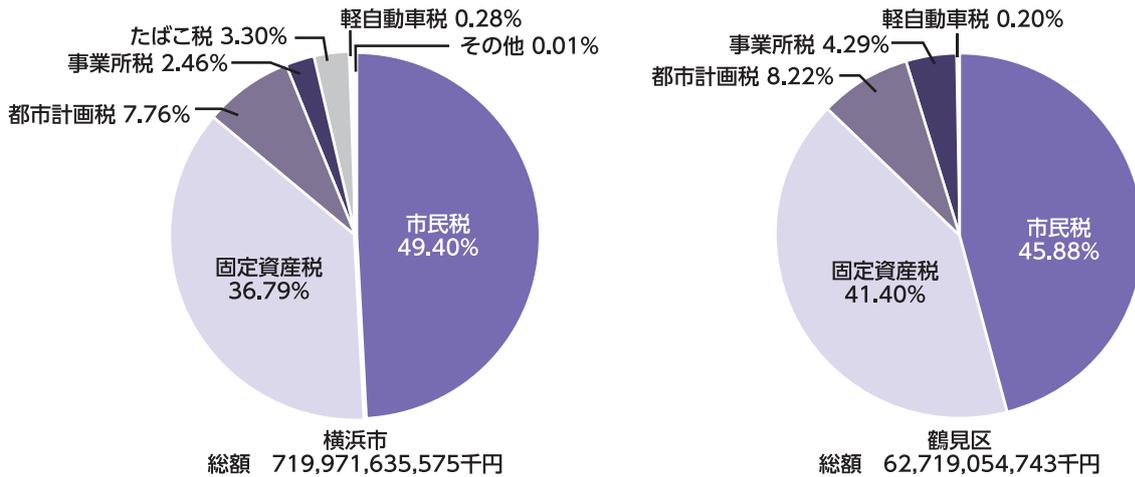
横浜市の平成26年度の市税収入は、約7,200億円で、前年度に比べ約126億円の増収。税別では、

- ①「個人市民税」は、株式譲渡収入の増加などにより増収。
- ②「固定資産税・都市計画税」は、家屋の新増築などによる増収。

そのほか、企業収益の回復基調により法人市民税が増収となっています。

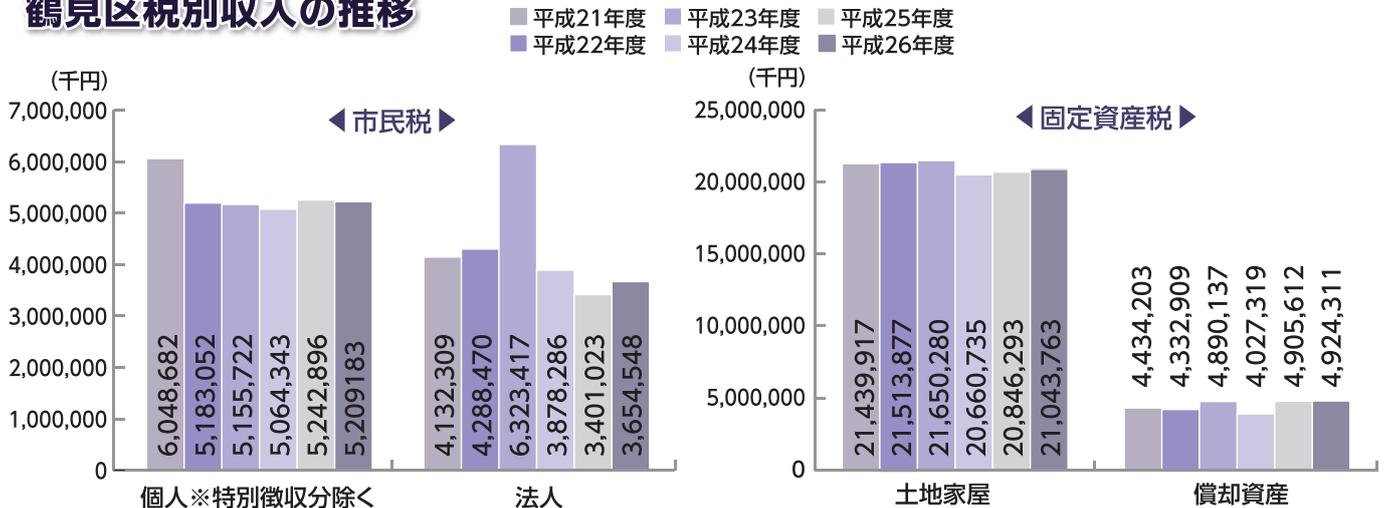
なお、鶴見区の平成26年度の市税収入は約627億円で、市全体の8.71%を占めています。

市税収入の構成比 (平成26年度)



資料：平成26年度市税決算額調

鶴見区税別収入の推移



資料：平成26年度市税決算額調

戸 籍

■戸籍数(本籍) (平成27年3月31日現在)

横浜市合計 1,246,054戸籍 (単位:戸籍)

1位	2位	3位
港北区 103,690	鶴見区 101,951	神奈川区 88,260

■住民登録世帯数(平成27年3月31日現在)

横浜市合計 1,729,704世帯 (単位:世帯)

1位	2位	3位
港北区 163,987	鶴見区 139,939	青葉区 130,612

鶴見区の戸籍数(本籍)は平成27年3月31日現在101,951戸籍、また、区内に住所を定めている世帯の数は、139,939世帯で、それぞれ港北区に次いで18区中第2位の多さとなっています。

昨年と比べて、戸籍数、住民登録世帯数ともに増加しているよ。



資料：鶴見区戸籍課

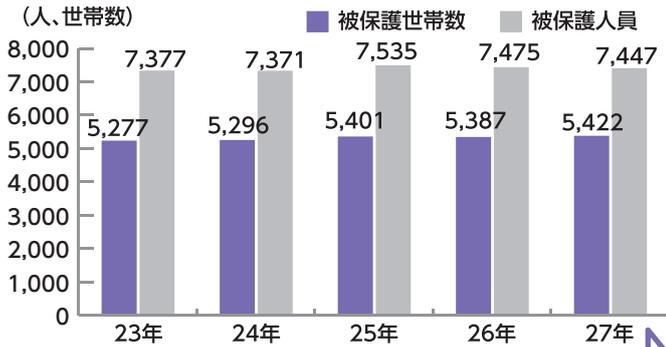
生活保護

生活保護人員・世帯・保護費の推移

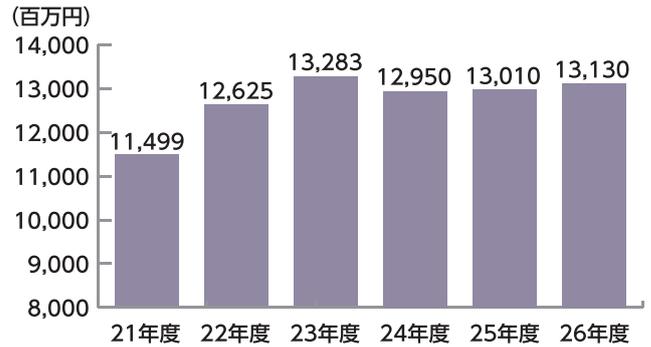
平成27年4月現在の鶴見区において、生活保護を受給している世帯は5,422世帯、人員は7,447人で、それぞれ中区、南区に次いで18区内中3位となっています。

最近の雇用の流動化等の社会情勢や経済情勢を背景に、今後も被保護世帯数が高い値で推移することが予想されます。

生活保護人員・世帯数の推移 (各年4月現在)



生活保護費の推移 (各年度)



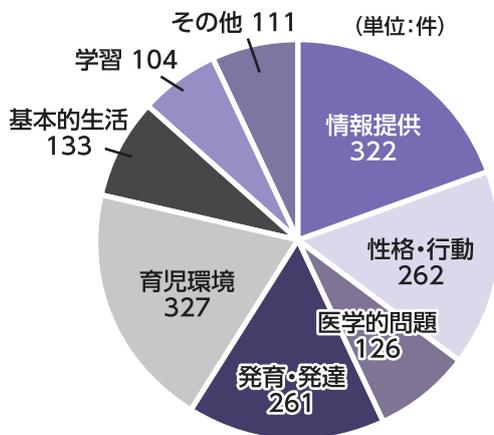
子育て

18区内中3位

資料：鶴見区生活支援課

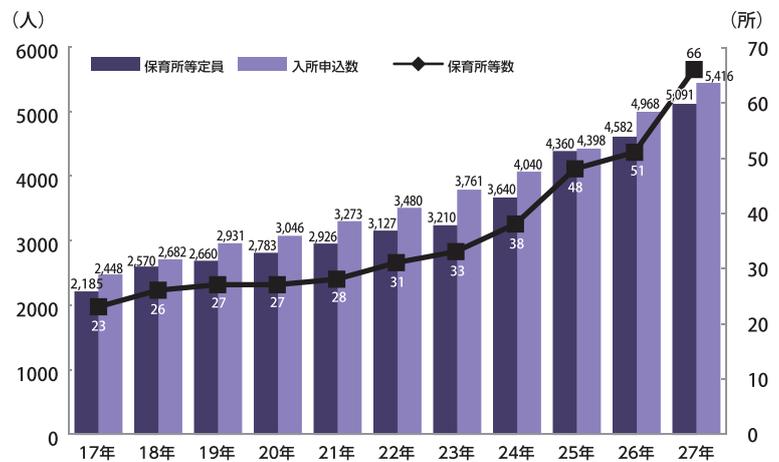
子ども家庭支援相談状況

(平成26年度延べ件数)

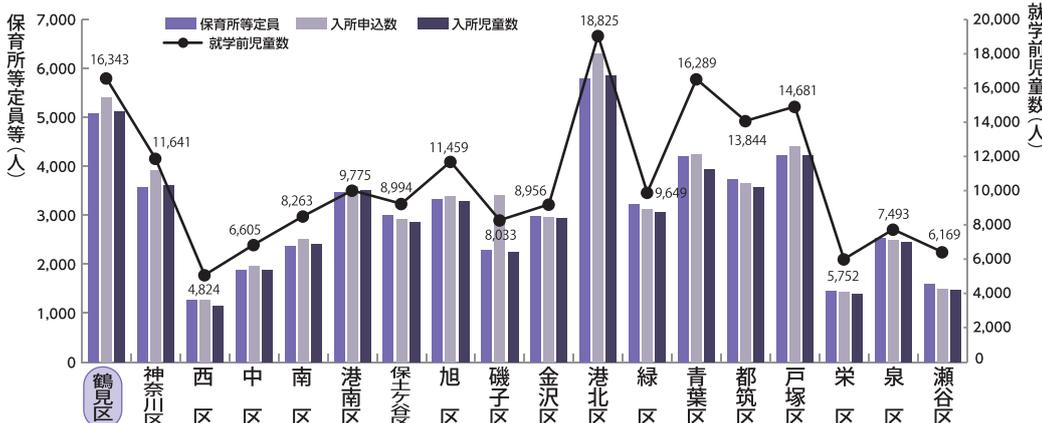


鶴見区の保育所等利用状況について

(各年4月1日)



18区の就学前児童数と保育所等の状況 (平成27年4月1日)



鶴見区は就学前児童数が港北区に次いで18区内中2番目に多く、保育所等の定員数も2番目に多いよ。
でも、就学前児童数が毎年増加しているから、保育所の整備がまだまだ必要な地域もあるよ。



資料：鶴見区子ども家庭支援課

※保育所等：平成27年4月から保育所・幼保連携型認定こども園のほか、地域型保育(家庭的保育、小規模保育、事業所内保育)を含む。

健康

主な死因の状況

がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病による死因が約6割を占めています。

主な死因の死亡数 (単位:人)

	全死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	老衰	自殺	肝疾患	慢性閉塞性肺疾患	腎不全	その他
24年	2,303	750	305	233	188	83	91	60	60	31	32	470
25年	2,205	666	322	234	166	87	122	58	41	24	33	452
26年	2,252	686	332	194	193	69	136	43	46	37	44	472

平均寿命

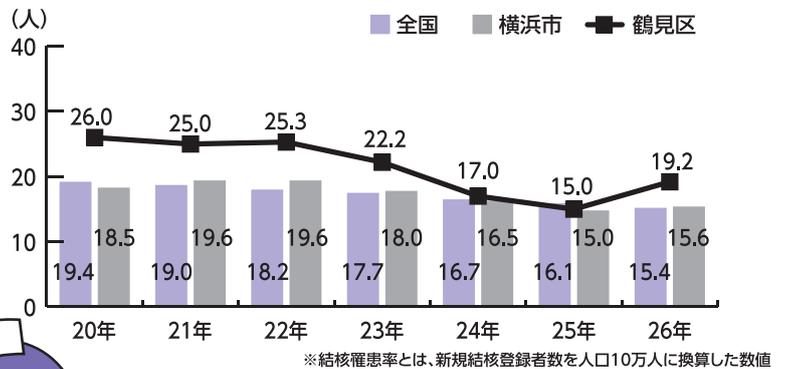
鶴見区の平均寿命(0歳の平均余命)は、男性で18区中17位、女性で18区中14位となっています。

区別生命表:平均寿命 (0歳平均余命) (平成23年)

	男	女
横浜市	80.27	86.30
鶴見区	78.76	85.61
神奈川区	79.75	86.31
西区	79.60	85.22
中区	76.41	84.57
南区	79.07	84.79
港南区	80.59	87.16
保土ヶ谷区	79.45	86.47
旭区	79.71	86.00
磯子区	79.72	86.44
金沢区	81.03	86.75
港北区	81.32	86.94
緑区	81.14	85.84
青葉区	82.04	87.10
都筑区	82.49	86.90
戸塚区	80.95	86.36
栄区	81.38	88.08
泉区	80.76	86.22
瀬谷区	79.69	85.49

結核

鶴見区の結核罹患率は、ここ数年減少傾向にありましたが、平成26年は微増しました。20~59歳までの働き盛りの人の発症が多いこと、約半数が排菌している状態で発見されています。



結核の予防には、栄養バランスのとれた食生活、十分な休息、禁煙など健康管理に注意することが大切だよ！
咳が2週間以上止まらない、微熱が続く等の症状がある場合は、最寄りの内科・呼吸器科を受診しましょう。

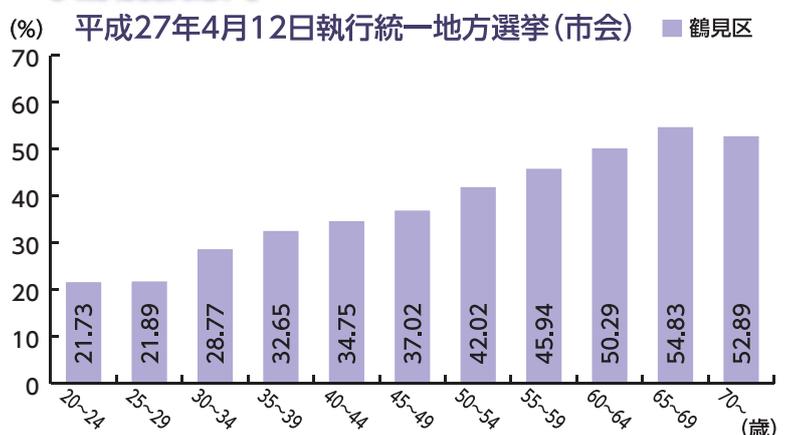
資料:鶴見区福祉保健課

選挙

最近の投票率

選挙名	選挙日	投票率(%)	
		鶴見区	18区中順位
統一地方選挙(市会)	H27.4.12	39.79	15位 横浜市42.00
衆議院議員総選挙(小選挙区)	H26.12.14	50.03	17位 横浜市54.06
横浜市長選挙	H25.8.25	26.25	18位 横浜市29.05
参議院議員通常選挙(神奈川県選挙区)	H25.7.21	52.37	16位 横浜市55.54
衆議院議員総選挙(小選挙区)	H24.12.16	56.72	16位 横浜市60.50
統一地方選挙(市会)	H23.4.10	44.42	17位 横浜市46.73

年齢別投票率



鶴見区の投票率は低迷しており、近年の選挙ではいずれも横浜市平均を下回っています。また、年齢別に投票率をみると、20代の投票率が最も低く、若年層の投票率の向上が課題となっています。

コラム

平成22年3月に廃止された花月園競輪場が平成27年度の終わりに解体工事が始めるのに先立ち、11月23日、バンク(競走路)の一部を1日限定で特別公開する「さよなら花月園競輪場イベント」が開催されました。当日は競輪選手によるメモリアルレースが行われ、最後のレースを一目見ようと多くの観客で賑わいました。



↑イベント当日のメモリアルレースの様子

◆花月園は東洋一を誇った大遊園地!? 日本初の児童遊園地だった!



↑花月園遊園地時代の案内図
森永の広告が載っていました。
京急花月園前駅も花月園遊園地の開業に合わせて大正3年に開業しました。

花月園の歴史は、江戸時代から子育て観音で有名だった東福寺の境内に、大正3年に開業した日本で最初の児童遊園地「鶴見花月園」から始まります。新橋-横浜間に鉄道が開通した明治5年に鶴見駅も開業し、鶴見は交通至便の地でした。富士山や首都東京を眺望し、鶴見川や東京湾を眼下に見下ろす起伏に富んだ丘陵地であったことなどから、この地が選ばれたとされています。

7万坪の敷地にブランコ、滑り台、観覧車、豆汽車、大山すべり、大入り弁財天、ダンスホール、少女歌劇、動物園、テニスコート、ボート池、屋内アイススケート場、西洋花壇等が次々にでき、東洋一の大遊園地と称されました。

実は、日本で初めての全国児童絵画展が開かれたのも花月園だったのです!
(大正5年)



◆総収容人員25,125名の大規模競輪場

昭和21年に花月園遊園地が閉園。その跡地に昭和25年に花月園競輪場ができました。敷地面積約44千平方メートル、座席数1,784席、総収容人数25,125名の大規模な競輪場でした。

横浜市内唯一の公営競技場として約50年間、地方財政に大きく貢献してきました。しかし、その後のレジャーの多様化、バブル経済崩壊以降の景気低迷により売上減少が続き、平成22年3月にその幕を閉じました。

競輪場跡地は将来、公園・宅地等に生まれ変わる予定です!
これまで鶴見に活気をもたらしていた花月園跡地が、再び笑顔であふれる、日が待ち遠しいですね!



写真提供: 鶴見歴史の会 齋藤美枝さん
参考文献: 「鶴見花月園秘話 東洋一の遊園地を創った平岡廣高」齋藤美枝
「花月園観光三十年史」花月園観光株式会社



横浜市の統計資料を探すなら



横浜市統計ポータルサイト

<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>



横浜 統計

検索

横浜市の最新の人口・世帯数や、主要な統計情報を提供する横浜市のホームページです。

鶴見区の過去から現在にかけての人口・世帯数の推移や、主要な統計情報を見ることができます。本書に載せきれなかった情報もありますので、是非、御利用ください。

[画像イメージ]

鶴見区を中心に4薬局を展開。
地域の皆さまのニーズに合わせた
医療サービスをご提供いたします。

処方せん受付

在宅支援サービス

無菌調剤対応

お薬・健康・介護相談

介護用品の販売

一般用医薬品販売

汐田薬局

鶴見区本町通1-30-3 TEL.045-521-5748
●JR・京急「鶴見」駅 徒歩9分、鶴見線「国道」駅 徒歩7分、
「鶴見小野」駅 徒歩8分

広告

新つるみ薬局

鶴見区矢向1-5-24 TEL.045-574-0111
●南武線「尻手」駅 徒歩9分、川崎駅より臨港バス「汐田総合病院前」
停留所すぐ、京急鶴見駅より市営バス「矢向」停留所 徒歩5分

梶山みつつけ薬局

鶴見区梶山1-10-32 TEL.045-710-0321
●JR・京急 鶴見駅より市営バス「三ツ池公園北門」停留所 徒歩1分

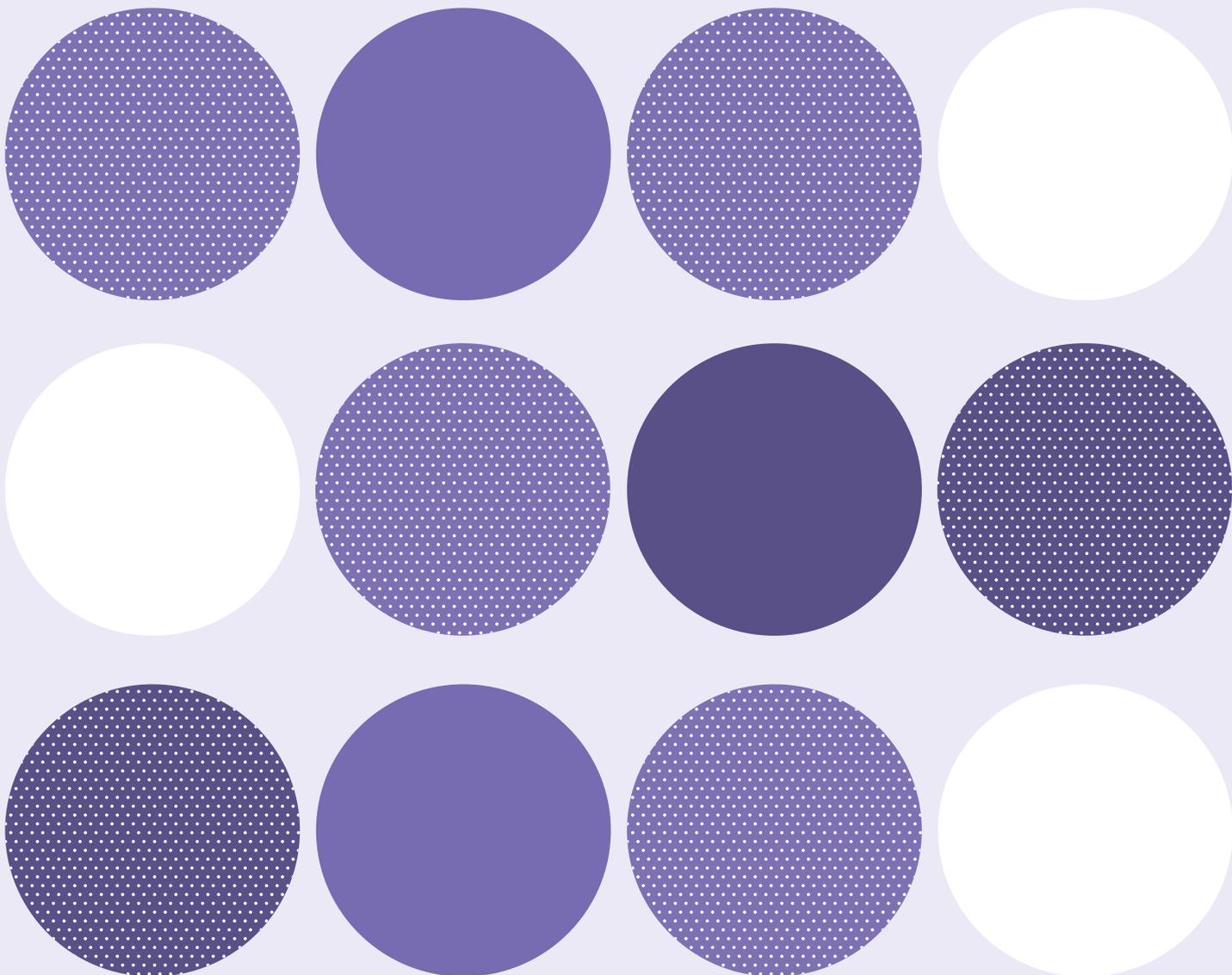
しんまち薬局

神奈川区浦島町7-1 TEL.045-461-0494
●京浜急行「神奈川新町」駅 徒歩5分



Humedica 株式会社 ヒューメディカ 地域の皆さまの健康と福祉向上に貢献する
〒230-0001 横浜市鶴見区矢向1-5-24 TEL.045-642-6511 FAX.045-642-6512
E-mail : yokohama@humedica.co.jp <http://www.humedica.co.jp/>





発行:鶴見区役所 総務課 統計選挙係

横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1

電話 045-510-1660

FAX 045-510-1889

<http://city.yokohama.lg.jp/tsurumi/>

平成28年1月発行

